

フードパントリー

～提供する人と受け取る人、お互いが笑顔に～

■問合せ/こども家庭課企画担当 ☎ 27-7550

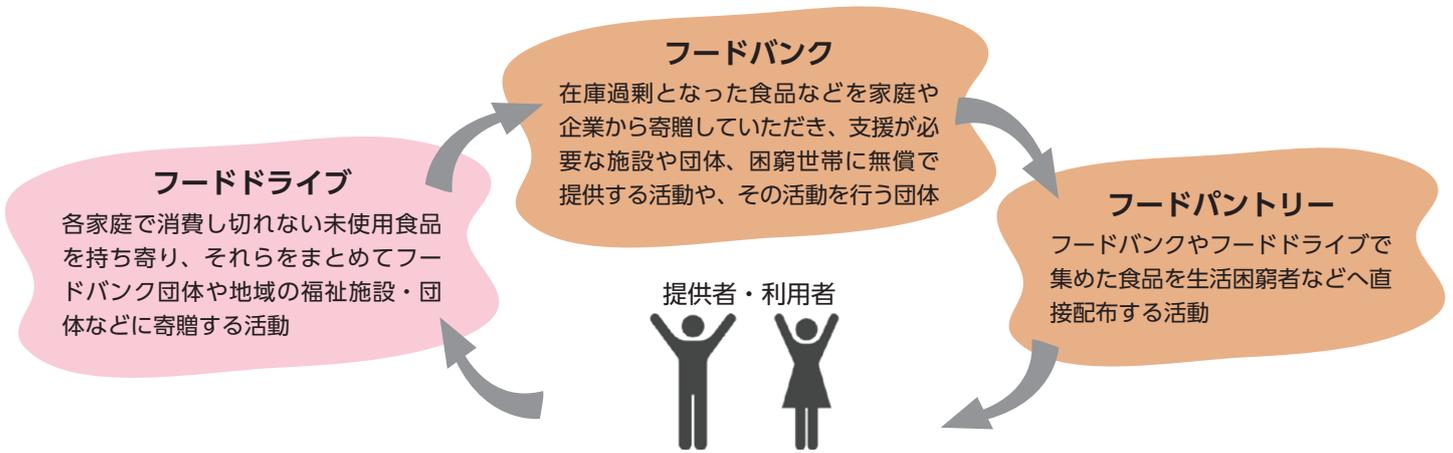
フードパントリーは、家庭や企業で余剰となった食品などを必要とする人へ提供する活動です。食材を提供する人・受け取る人の双方が食品ロス*削減に貢献でき、環境保全にも役立つ活動として注目されています。

今号の特集2では、定期的に学生に向けたフードパントリーを開催している「フェリーチェの会」の活動を紹介します。

*食品ロス：本来食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。国内では年間約472万トン（令和4年度推計値）の食品ロスが発生しており、日本人1人当たり毎日おにぎり約1個分のご飯を捨てている計算になる。

3つの活動が循環しています

食品ロスを減らし必要な人に提供する取り組みとして、「フードドライブ」「フードバンク」「フードパントリー」という循環する3つの活動があり、SDGsでも積極的に推進されています。



フードドライブ協力企業・団体からの一言

株式会社ヨークベニマル

令和5年5月からフードドライブ事業を実施しています。家庭で使いきれない食品を店舗に設置したボックスに入れていただき、フードバンク・フードパントリーを運営する団体やこども食堂に毎月お渡ししています。市内4店舗でも実施していますので、ぜひご参加くださるようお願いします。



（株）ヨークベニマル総務室
室長 江瀬 和行 さん

置賜総合支庁 環境課

家庭で使う予定のない食品などをお持ちいただき、フードバンク団体などに提供するフードドライブ事業を行っています。令和7年2月に実施し、県民や総合支庁職員から寄せられた食品などは、学生を中心にこども食堂の運営などを行っているフェリーチェの会（他1団体）に提供し、活用していただきました。



置賜総合支庁環境課
課長補佐 横山 英史 さん

米沢市での取り組み

令和4年度から環境課と連携して市役所や各コミュニティセンターなどでフードドライブを実施し、集めた食品をこども食堂に寄附する活動を続けています。また、第3次米沢市食育推進計画でもフードドライブを推進しています。

市内のスーパーやコンビニエンスストアなどさまざまな場所でもフードドライブ活動が開催されています。家庭で余っている食品などがある人は、ぜひ提供してみませんか。



米沢で暮らす学生のために

フェリーチェの会代表の会沢さんに、活動を始めたきっかけや今後の展望などを聞きました。



フェリーチェの会
代表 あいざわ てつや 会沢 哲也 さん

私は助け合いの中で共生社会をつくっていきけると思っています。ホームページに活動を通して集めた声を掲載しています！
フェリーチェの会
ホームページ



多くの人の支えで成り立っています

—個人・企業・行政など、幅広く多くの人からの支援をいただいで運営が継続できていることは大変ありがたいです。一方で、年度替わりの時期で補助金などの確定が得られない場合、活動の継続が困難になります。実際、昨年5月以降運営資金の不安から4カ月間活動が休止し、改めて多くの人のご理解とご協力で成り立っていると実感しました。

食品ロス削減・循環型社会の一助に

—活動を継続していく中でさまざまな思いで支援してくださる人がいることが分かりました。お歳暮やお中元、会社やお店のイベントでもらったものなど自分の購買意欲外で手に入るものは多くあります。それらの消費期限が切れる前に、必要とする人に回することで循環型社会構築の一助になると思います。

何かあったときに頼れる、助け合いの輪をつくる

—地域のつながりはとても大切で、特に多くの学生にとって米沢市は地元ではなく、何かあった時に頼る相手は限られます。その中で信頼し合える関係を築き「助け合いの輪」をつくっていくことが大切だと思います。また、最近増えている留学生の参加者が、偏見や差別のない共生社会への道を大きく開いてくれるのではないかと期待しています。

コロナ禍で始めたフードパントリー

—2020年、コロナ禍でアルバイトによる収入がなくなり不安に思っていたときに、周りの学生も同じ状況なのではないかと考えました。そこで、他地域での取り組みを参考に学生向けのフードパントリーを始めました。

米沢で暮らす学生に目を向けて

—当時、アルバイトのシフトがなくなり生活を切り詰めたり、不安を抱える学生は想像以上に多くいました。特に、新入生は知らない土地で対面授業もサークル活動も中止となり、多くの学生が行き場をなくしていることに気が付きました。コロナ禍が落ち着いた今でも、学費や物価高騰に不安を抱えフードパントリーを利用する学生は多くいます。

たくさんのボランティアも協力しています

3月23日(日)に南部コミュニティセンターで行われたフードパントリーに取材に伺いました。当日は14人がボランティアで参加し、46人が利用しました。参加したボランティアや利用者にお話を聞きました。



全国的に物価高が深刻な問題となっているので、この食料支援はとてもよい取り組みだと思いますし、やりがいを感じています。最近では留学生のボランティアや利用者も増えていて、国際交流の場にもなっていると思います。

はなわ みお (左) 塙 滯 さん しま ひとみ (右) 色摩 瞳美 さん



毎回たくさんの利用者が来場し、来てくれたみんながありがとうございます。通訳などをするだけで少しでも活動に貢献したいです。利用者が笑顔になってくれると、私もとても嬉しいです。

きくち たいよう (左) 菊地 太陽 さん とう かいでん (右) 唐 海田 さん



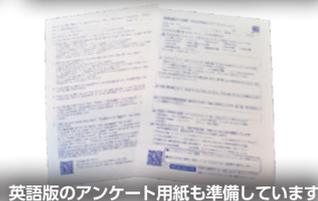
留学生ボランティアも活躍しています



学生などたくさんの方が来場しました



利用者にはアンケートにご協力いただきます



英語版のアンケート用紙も準備しています

利用者の声 /

毎回利用しています。会場にいるスタッフもみんな優しいので、利用しやすいです。(20代 男性)



ホームページで調べて、このパントリーを知りました。とても助かっています。(20代 女性)

